

屋内退避と感染症対策は両立しない 原子力災害避難計画は抜本的な見直しを、と主張

9月議会での私の一般質問の続報です。今号では、原子力災害時の避難対策をとりあげました。以下、その大要です。

【橋爪】柏崎刈羽原子力発電所については、県段階で、「事故が起きた場合の避難方法の検証」など3つの検証作業が行われているが、新型コロナウイルスの感染を防ぐ必要性が浮上するなかで問題を一層難しくしている。原子力災害が発生したときに、避難計画で検討すべき課題と今後の対応について市長の見解を聞きたい。

【市長】内閣府は、本年6月、「感染症流行下での原子力災害時における防護措置の基本的な考え方」を発表した。県内全市町村で構成する「原子力安全対策に関する研究会」では、8月に実務担当者会議を開催し、内閣府の担当者から、「屋内退避時には被ばくを避けることを優先し、換気を制限すること」など、避難時における感染防止対策の基本方針について、直接、説明していただいた。

内閣府では、「基本的な考え方」に基づく感染防止対策を県と市町村の避難計画に反映できるように、「避難所」などにおいて、県と市町村が実施する対策や留意すべき点等を「ガイドライン」としてまとめ、来月中を目途に係自治体に示すとのことだ。

これを受けて市町村研究会では、今後、「避難所」などの「感染症に対応した運営マニュアル」のひな型を作成することとしている。これらを参考としながら、当市の避難計画における感染防止対策に「反映してほしい」とい。

【橋爪】屋内退避と感染症対策は両立するのか。私はしないと思う。感染症

は新型のものがまだまだ出てくる可能性がある。避難計画は抜本的な見直しをすべきではないか。

【防災危機管理部長】県の検証委員会でも両立できるのかという話もある。国では被爆のリスクの方が感染症のリスクよりも高いとしているが、我々もその根拠を示して要請している。

【橋爪】原発再稼働と同意を求める自治体の範囲について、関係自治体議員などの新たな動きがある。改めて市長の考えを聞きたい。

【市長】仮に同意を求められた場合には、技術的、経済的視点、また、防災対策など、再稼働の可否を判断する観点や評価すべき基準はどうなるのかなど、考えなければならぬ点は多い。同意を求める自治体の範囲についても、国が専門的な知見に基づき、評価基準等もあわせて示すべきだ。

特例減免手続きは簡略化を

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、3割以上の収入減少が見込まれる世帯は、国保税が減額・免除されます。しかし、実際の申請数は、県内平均でも0.62%にとどまっています。下表で明らかのように、上越市はその平均よりも下位にあります。

こうしたなかで三条市は、個人住民税・国保税・介護保険料の3つを1枚の申請書で申請できるようにし、1か月の減収見込み額だけで申請可能としています。ぜひ、上越市でも取り組んでほしいものです。

8月15日現在の県内市町村の国民健康保険税特例減免の申請率 (加入世帯は平成30年度末)

自治体名	加入世帯	申請世帯数	申請率	自治体名	加入世帯	申請世帯数	申請率
三条市	12,037	397	3.30	上越市	23,646	86	0.36
湯沢町	1,618	24	1.48	刈羽村	565	2	0.35
南魚沼市	7,744	107	1.38	燕市	9,616	33	0.34
田上町	1,709	23	1.35	五泉市	6,799	23	0.34
出雲崎町	669	7	1.05	佐渡市	9,084	28	0.31
村上市	8,321	61	0.73	新発田市	12,369	37	0.30
加茂市	3,717	26	0.70	魚沼市	4,964	14	0.28
新潟市	101,684	665	0.65	津南町	1,423	4	0.28
十日町市	7,355	48	0.65	長岡市	33,313	93	0.28
阿賀野市	5,628	34	0.60	小千谷市	4,690	12	0.26
弥彦村	1,003	6	0.60	見附市	4,923	8	0.16
糸魚川市	5,670	31	0.55	胎内市	4,053	5	0.12
妙高市	4,434	24	0.54	柏崎市	11,414	13	0.11
阿賀町	1,654	7	0.42	粟島浦村	56		0.00
関川村	724	3	0.41				
聖籠町	1,524	6	0.39	合計	165,491	1,469	0.62



【サワアザミ】キク科の多年草。漢字で「沢薊」と書きます。草丈が2～3メートルもあり、アザミのなかでも目立ちます。花期は9～10月。花は紫色で、うつむき加減です。でも元気がないわけではありません。いばっていないだけです(笑)。花言葉は「私に触れないで」。写真は上越市大島区竹平にて10月1日、撮影しました。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1980 2020.10.11
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

食料自給率、家族農業をもっと大切にする政策を 原子力災害避難計画は抜本的に見直し

9月議会での一般質問で私は、新型コロナウイルス感染症との関連で農業政策はどうかあるべきか、原子力災害発生時の避難計画などについてとり上げました。以下はその概要です。

【橋爪】新型コロナウイルス感染症は食料を自給できない日本農業の弱点を浮き彫りにした。国では「食料・農業・農村基本計画」を改定したが不十分だ。国連の「家族農業の10年」を重視すべきだ。当市は「食料・農業・農村基本条例」という素晴らしい条例を20年前に制定したが、いま、これに磨きをかけて農業政策を展開していくことが求められているのではないかと。

【市長】国の基本計画の見直しでは、「地域をいかに維持し、次の世代に継承していくのか」という視点を重視することともに、経営規模の大小や中山間地域といった条件にかかわらず、幅広く生産基盤の強化も図っていくこと

された。当市の「食料・農業・農村基本計画」の見直し作業では、国の見直しポイントを基本としつつ、大規模経営体のみならず、小規模な農家であっても、意欲と誇りを一層高め、将来にわたって希望が持てる道しるべとしていく。

屋内退避と感染症対策は両立しない

【橋爪】柏崎刈羽原子力発電所については、県段階で、「事故が起きた場合の避難方法の検証」など3つの検証作業が行われているが、新型コロナウイルスの感染を防ぐ必要性が浮上するなかで問題を一層難しくしている。原子力災害が発生したときに、避難計画で検討すべき課題と今後の対応について市長の見解を聞きたい。

【市長】内閣府は、本年6月、「感染症流行下での原子力災害時における防護措置の基本的な考え方」を発表した。県内全市町村で構成する「原子力安全対策に関する研究会」では、8月に実務担当者会議を開催し、内閣府の担当者から、「屋内退避時には被ばくを避けることを優先し、換気を制限すること」など、避難時における感染防止対策の基本方針について、直接、説



【サワアザミ】キク科の多年草。漢字で「沢薊」と書きます。草丈が2～3メートルもあり、アザミのなかでも目立ちます。花期は9～10月。花は紫色で、うつむき加減です。でも元気がないわけではありません。いばっていないだけです(笑)。花言葉は「私に触れないで」。写真は、大島区竹平にて10月1日、撮影しました。

明していただいた。内閣府では、「基本的な考え方」に基づく感染防止対策を県と市町村の避難計画に反映できるように、「避難所」などにおいて、県と市町村が実施する対策や留意すべき点等を「ガイドライン」としてまとめ、来月中を目途に係自治体に示すとしている。

これを受けて市町村研究会では、今後、「避難所」などの「感染症に対応した運営マニュアル」のひな型を作成することとしている。これらを参考としながら、当市の避難計画における感染防止対策に反映してまいりたい。

【橋爪】屋内退避と感染症対策は両立するの。私はしないと思う。感染症は新型のものがまだまだ出てくる可能性がある。避難計画は抜本的な見直しをすべきではないか。

【防災危機管理部長】県の検証委員会でも両立できるのかという話もある。国では被爆のリスクの方が感染症のリスクよりも高いとしているが、我々もその根拠を示して要請している。

【橋爪】原発再稼働と同意を求める自治体の範囲について、関係自治体議員などの新たな動きがある。改めて市長の考えを聞きたい。

【市長】仮に同意を求められた場合には、技術的、経済的視点、また、防災

対策など、再稼働の可否を判断する観点や評価すべき基準はどのようになるのかなど、考えなければならぬ点が多い。同意を求める自治体の範囲についても、国が専門的な知見に基づき、評価基準等もあわせて示すべきだ。

32議案のうち6議案に反対しました

9月議会最終日、日本共産党議員団の平良木議員が討論に立ちました。同議員は、市長が提案した32議案の内、6議案に反対した理由をのべました。

このうち、昨年度の一般会計歳入歳出決算の認定では、「妊産婦医療費の完全無料化、移住・就業支援金制度の創設などいくつか評価できる点があるが、いくつかの重大な問題点を持っている」として、①行政改革の名の下の、中学生の広島平和記念式典への派遣人数を3分の1に減らしたこと、②市民の懸念をよそに公立保育園の民営化を進めていること、③市民合意がないなかで、上越体操場ジムリーナ建設を強行したことなどを批判しました。

採決では日本共産党議員団が6議案だけ反対、他の議案に賛成しました。他の党派、無所属議員は全議案に賛成でした。



No.1980 2020.10.11
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

 橋爪法一 検索

春よ来い 第六二七回 波紋

ひとつのことが人と人をつなぎ、池に石を投げ入れたときのように波紋を広げていく。ここ数ヶ月、そんな経験をしました。

一〇月最初の日曜日は、地元町内会の今年最後の草刈りでした。午前一〇時四十五分に作業が終わり、その後は、恒例の慰労会です。それぞれにワンカップ一個、ビール五〇〇cc一缶が配られ、参加者は農道の側溝などに腰掛け、「柿の種」などの乾物をつまみに楽しいひと時を過ごしました。

私の隣に座ったのはHさん、そしてその隣はSさんです。この日はこの二人と話をし、時間の経つのを忘れました。たぶん、一時間近くおしゃべりをしたのではないかと思います。

「橋爪さんに言おうと思っていたんだけど……」と口火を切ったのはSさんです。Sさんは、いまから五六年前、一九六四年（昭和三九）四月のある日の思い出話を語ってくださいました。

当時、Sさんは大学生、新潟市で下宿生活をされていました。実家の近くの小学六年生の子どもが、修学旅行で新潟へ行くから、会いたいとハガキをくれたというのです。そこには泊まる予定となっていた東中通りの飯田旅館の名前や会える時間帯も書いてあったようです。

指定された当日、Sさんは飯田旅館を訪ねました。その時、二人の小学六年生と懐かしい再会を果たされたのですが、Sさんは私に向かつてこう言われたのです。

「そんな時、応対して下さった担任が古澤かをる先生だったんですよ」

驚きましたね。私は「はい、」

「あの古澤先生ですか」

と聞き返しました。

私の思っていた通りでした。今年の五月に、「春よ来い」の第六〇七回、「六〇年前のお礼」で私が紹介した旧川谷小学校、旧吉川小学校の古澤先生だったのです。

私がびっくりしたのには理由があります。じつは、この日の六日後に柿崎区下条のKさん宅で古澤先生に初めてお会いすることになっていたので。まさに最高のタイミングで寄せられた情報に私の心はふるえました。

「一〇日に古澤先生とお会いすることになっていそうですね。いい話ですね」

私はそう言ってSさんに感謝しました。

Sさんは最近、「自身に宛てられた数年分のハガキ等を読み返しておられるとのことですが、こうしたものを保存し、一枚のハガキをめぐるエピソードをしっかりと記憶されていることにも驚きました。

SさんやHさんとは、五六年前の新潟での出来事から始まって話が弾みました。五十年前、旧川谷小学校への通学時に発生した雪崩事故のこと、初めて社交ダンスパーティに参加し、女性の腰に手が触れた瞬間に体が反応した切ない体験、吉川区高沢入や大賀などからは海が見え、海に憧れた人がいたことなどを語り合いました。

「六〇年前のお礼」を書いて以来、吉川区内外の何人もの方から、「私も習ったんです」「古澤先生に手紙を書きました」などと声をかけていただきました。手紙をくださった方もあります。四百キも離れたところに住んでおられるTさんからは、四〇分にも及び電話をいただきました。つながりが広がっていくのは本当に感動でした。

日頃、私がお世話になっている下条のKさんご夫妻からも話がありました。お二人は古澤先生本人や柿崎中学校にお勤めだったお連れ合いと昵懇（じっこん）にしておられたのです。Kさんから、「古澤さんから橋爪さんに会いたいと電話があつてね」と連絡があつたときは嬉しかったですね。

もうすぐ一〇月一〇日。まだ見ぬ八〇代の女性との出会いを前に私はいま、ワクワクしています。（この文章は八日に書きました）

吉川高等特別支援学校が創立10周年記念誌発行

下の文章は記念誌に寄せた私の思いです。ご一読いただければ幸いです。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月30日(水)	10月7日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.060	0.053
東頸消防署	0.047	0.053
名立分遣所	0.050	0.053
高士分遣所	0.053	0.050

“みんな一生懸命”が素敵

いまから9年前の5月のことです。学校の3階へ行き、うれしくなりました。2回目のスマイルカフェがとても素敵だったからです。生徒のなかには、うれしそう顔をしてコーヒーを運んでいる者もいれば、胸をドキドキさせながら注文をとっている者もいる。先生はといえば、自分の仕事をしながら、その様子を暖かく見守っていました。みんなが力を合わせ、頑張っていました。小さな失敗もあったこととは思いますが、とにかく、みんな一生懸命やっているところが強く印象に残りました。

この日のスマイルカフェには、地域の人たちが50人くらい集まったように記憶しています。校長の赤松先生は、私に、「いま、吉川区の中で人口が一番密集している空間はここです」と言ってニコニコされていました。参加された年配の女性のなかには、この日のために精一杯のおしゃれをしてこられた方もありましたね。地域の人たちも、支援学校が始めた取組を大いに盛り上げたい、そう思っていたのです。



私がスマイルカフェに行ったのは、この時が初めてでした。支援学校の生徒の学校生活を見たのも初めてです。率直に言って、どんな学校経営となるのかわからなかったのも、不安が少しはありました。でも、いまでは「これこそ夢を追い続ける本物の学校だ」と思っています。これからも地域住民の一員として応援していきます。